

多剤・重複投与の危険から患者を守る：くすりのリスク

【多剤・重複投薬の危険から患者を守るしくみ】

【課題】

高齢率の上昇に伴い、
適正処方への対策が必要

- ・薬剤有害事象
- ・転倒事故の多発

【目的】

薬の処方を適正化し、
住民の健康にまつわる
課題や医療費の抑制を
図る

【政府の動き】

身近にあるかかりつけ薬
剤師の指導を受けるなど、
一元的な処方への移行を
推進。

B: かかりつけ薬局

- ③ 残薬チェック、投薬指導。
(必要なら一包装調剤)
- ④ 多剤・重複投薬の注意喚起
- ⑤ 医師と投薬を調整。
家族へのお知らせ。

投薬調整

【処方箋情報入力システム】
【情報連携ツール】

疑義照会

医師

対象者

調剤レセプト
情報

契約

保険者
北九州市 協会けんぽ 健保連



残薬管理
服薬指導

アラート

A: 投薬状況を一元管理して、
注意喚起できる仕組み

- アラームリスト出力
- ① 多剤投薬注意喚起
 - ② 重複投薬注意喚起

【投薬分析システム】

C: 飲み忘れ防止と残薬管理が
簡単にできる



- ⑥ 残薬管理
- ⑦ 飲み忘れ防止

残薬カウント
一包装調剤



家族・介護者
患者本人

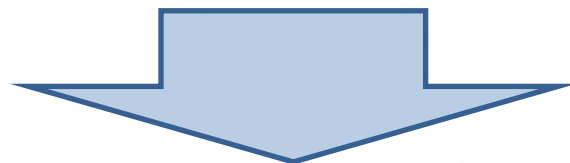
D: 患者・家族と情報連携

- ⑧ かかりつけ薬局との連携
- ⑨ 家族・医師との連携

【情報連携ツール】

報酬

データの非識別加工・匿名加工



データ活用を進めるためには
個人情報保護条例の改正要
この点も進めていただきたい